

問1 田沼意次が行った政治の背景と、その時期的な位置づけについて説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）

- 徳川吉宗による享保の改革と、松平定信による寛政の改革の間の時期にあたり、商業を重視した。
- 徳川家光による参勤交代の確立後、幕藩体制が最も安定した時期にあたり、農業の振興を第一とした。
- 寛政の改革と天保の改革の間の時期にあたり、鎖国を強化して外国船の打ち払いを進めた。
- 江戸幕府が開かれた直後の時期にあたり、朱印船貿易を推進してキリスト教を容認した。

問2 江戸時代、日本海沿岸の各港に寄港しながら北海道から大坂までを結び、各地の特産物を買取りながら転売して大きな利益を上げた船を何と呼びますか。（2019年 徳島公立入試 類似）

- 菱垣廻船
- 樽廻船
- 北前船
- 遣明船

問3 江戸時代の対外政策や情報収集に関する出来事のうち、歴史的な事実として正しいものはどれですか。（2025年 沖縄公立入試 類似）

- 徳川吉宗は実学を奨励し、キリスト教に関係のない漢訳洋書の輸入制限を緩和して海外の知識を取り入れた。
- 田沼意次はオランダとの貿易を完全に禁止し、海外情報の流入を一切断ち切る政策を断行した。
- 幕府は間宮林蔵に対し、オランダ風説書の内容を検証するために朝鮮半島の詳細な測量を命じた。
- 江戸時代を通じて、幕府はオランダ船から得た情報をすべて翻訳し、瓦版などで広く民衆に報じさせた。

問4 江戸幕府は、ポルトガルなどの国々を排除していく一方で、ヨーロッパ諸国の中ではオランダに対してのみ、長崎での貿易を継続することを認めました。オランダが他のヨーロッパ諸国と異なり、幕府から貿易を許可された最大の理由として正しいものを選びなさい。（2018年 福島県公立入試 類似）

- キリスト教の布教を目的とせず、貿易のみを行うことを幕府に約束したから
- 徳川家康の外交顧問として、オランダ人が江戸城に常駐して政治を支えていたから
- 島原・天草一揆の際に、幕府軍の側に立って反乱軍を攻撃するなどの協力をしたから
- 生糸の輸出を独占しており、日本国内の衣類生産に不可欠な存在だったから

問5 江戸時代中期の元禄文化を代表する人物である近松門左衛門が、その作品を通じて当時の社会に与えた影響や特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2015年 岡山公立入試 類似）

- 人形浄瑠璃や歌舞伎の脚本を通じて、町人の義理や人情、悲恋といったリアルな心情を描き出した。
- 幕府の御用絵師として、城郭の障壁画に金碧濃彩の豪華な絵を描き、武士の権威を象徴した。
- 身分制度を批判し、全ての人間が平等であるという思想を広めるために政治的な演説を行った。
- 日本各地を測量して歩き、科学的な手法に基づいた精巧な日本地図を完成させた。

問6 江戸時代の百姓一揆などで、指導者が誰であるかを特定されないように、参加者が署名を円形に書き連ねた文書を何というか。（2023年 青森県公立入試 類似）

- からかさ連判状
- 五人組
- 目安箱
- 慶安の御触書

問7 江戸時代後期に書かれたある物語では、弥次郎兵衛と喜多八という二人の人物が伊勢参りに向かう道中を面白おかしく描いており、当時の庶民の間で大流行しました。この作品の作者は誰ですか。（2026年 滋賀公立入試 類似）

- 十返舎一九
- 井原西鶴
- 松尾芭蕉
- 本居宣長

問8 江戸幕府が長崎の出島において、オランダ船から「風説書」という報告書を提出させていた主な目的として、最も適切な背景はどれですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）

- 日本の文化をヨーロッパへ広く紹介し、輸出を促進するため。
- キリスト教の布教を再開させるための準備として、現地の状況を探るため。
- 海外の情報を独占することで、幕府の権威を保ち、対外的な危機管理を行うため。
- オランダ語の通訳を養成し、最新の医学や科学を日本全国に普及させるため。

問9 江戸幕府の対外関係において、九州南部の薩摩藩が担った窓口としての役割について、その仕組みを説明したものとして正しいものはどれですか。（2024年 鳥取公立入試 類似）

- 琉球王国を支配下に置き、琉球が行っていた中国との朝貢貿易を通じて利益を得た。
- 長崎の出島を管理下に置き、オランダ船から輸入されるキリスト教関連の情報を監視した。
- 対馬の宗氏を指揮し、朝鮮から派遣される通信使の接待や外交儀礼をすべて代行した。
- 堺や博多の豪商と協力し、幕府の許可を得た朱印船を東南アジアへ派遣して中継貿易を行った。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 徳川吉宗による享保の改革と、松平定信による寛政の改革の間の時期にあたり、商業を重視した。	田沼意次の政治は、8代将軍吉宗による「享保の改革」による緊縮財政のあとに、硬直した財政を立て直すために行われました。その後、田沼が失脚すると松平定信による「寛政の改革」が始まり、再び厳しい儉約や農村復興を重視する方針に戻りました。このように、二つの大きな改革の合間に位置する、商業資本を積極的に活用した異色な時期といえます。
問2	<b>答え 3</b> 北前船	北前船は、日本海側を通る「西廻り航路」で活躍した買積船（かいづみぶね）です。単に荷物を運ぶだけでなく、寄港地で商品を買ひ、別の寄港地で高く売るといった商社のような役割を兼ね備えていました。これにより、北海道の昆布やニシンが上方へ運ばれ、上方からは古着や米、塩などが地方へ届けられるという文化の交流も生まれました。
問3	<b>答え 1</b> 徳川吉宗は実学を奨励し、キリスト教に関係のない漢訳洋書の輸入制限を緩和して海外の知識を取り入れた	八代将軍の徳川吉宗は、享保の改革において農業や医学などの実用的な知識を重視しました。そのため、キリスト教の布教に関わらない本であれば輸入を認めるように制限を緩和し、これが後の蘭学の発達につながりました。田沼意次はむしろ貿易を盛んにしようとし、間宮林蔵が調査したのは樺太（サハリン）方面です。また、海外情報は幕府によって厳重に管理・独占されていました。
問4	<b>答え 1</b> キリスト教の布教を目的とせず、貿易のみを行うことを幕府に約束したから	江戸幕府は、キリスト教の教えが幕府の封建的な支配体制を揺るがすことを恐れ、布教活動を厳しく禁じました。ポルトガルやスペインなどのカトリック諸国は、貿易と布教を一体として進めていたため排除されましたが、プロテスタント諸国であるオランダは、布教を行わずに商業的な利益のみを追求する姿勢を示したため、長崎の出島での貿易継続が認められました。
問5	<b>答え 1</b> 人形浄瑠璃や歌舞伎の脚本を通じ、町人の義理や人情、悲恋といったリアルな心情を描き出した。	元禄文化は、経済力をつけた町人が文化の担い手となったことが大きな特徴です。近松門左衛門は、それまでの歴史上の人物を扱う物語だけでなく、当時の心中事件などを題材にした「世話物」と呼ばれるジャンルを確立し、町人の複雑な感情や葛藤を表現しました。障壁画は桃山文化の狩野派、測量による地図作成は江戸時代後期の伊能忠敬の事績です。
問6	<b>答え 1</b> からかさ連判状	百姓一揆において、指導者（中心人物）が判明すると厳しく処罰される恐れがありました。そのため、署名を円形に並べることで始まりと終わりをなくし、誰が首謀者か分からないように工夫しました。これを傘を開いた形に見立てて「からかさ連判状（傘連判）」と呼びます。
問7	<b>答え 1</b> 十返舎一九	江戸時代後期の化政文化では、庶民の旅や日常生活をユーモアたっぷりに描いた「滑稽本」というジャンルが人気を博しました。十返舎一九が書いた『東海道中膝栗毛』はその代表作であり、伊勢参りという当時の庶民の憧れを題材にしています。井原西鶴は元禄文化期に「浮世草子」を執筆した人物であり、時代背景や作品の性質が異なるため注意が必要です。
問8	<b>答え 3</b> 海外の情報を独占することで、幕府の権威を保ち、対外的な危機管理を行うため。	幕府が特定の窓口を通じて情報を管理したのは、国内の諸藩が独自に海外と接触し、幕府を上回る軍事力や知識を持つことを防ぐためでした。情報を独占することは、対外的な危機管理だけでなく、国内支配における幕府の圧倒的な優位性を維持する重要な手段となっていました。なお、医学等の蘭学の普及は、あくまでその情報の副産物としての側面が強いものです。
問9	<b>答え 1</b> 琉球王国を支配下に置き、琉球が行っていた中国との朝貢貿易を通じて利益を得た。	薩摩藩は1609年に琉球王国へ出兵してこれを支配下に置きましたが、琉球と中国（明・清）との朝貢関係は継続させました。これにより、薩摩藩は琉球を通じて中国の産物を得る「中継貿易」を行い、幕府もこれを鎖国体制における例外的な窓口の一つとして公認していました。これにより薩摩藩は経済的な力を蓄えることとなりました。